

保健学習における「喫煙と健康」についての目標及び 保健教材例等に関する一考察

長川 友哉 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 中菌 伸二

キーワード：喫煙と健康，目標，わかる・楽しい保健教材，科学的認識形成，

1. 緒言

重要な健康課題である「喫煙と健康」の実践は、比較的なされているが、喫煙は成人すれば自由を強調傾向の実践、喫煙の恐怖中心の実践、喫煙者排除や行動最優先の危険も生じ易い。目標設定の必要性としては、一つは、がん、循環器疾患、呼吸器疾患、糖尿病、周産期の異常など様々な病の原因となることが科学的知見として確立されており、その健康影響は明らかである。

二つ目は、たばこ消費者は近年減少傾向にあるが、過去のたばこ消費による長期的な健康影響と急速な高齢化により、たばこ関連の疾患での死亡数は年々増加している。

喫煙の有害性だけでなく、喫煙者の背景、社会・環境の一層の変革へ向け、共に生きるための喫煙と健康についての納得・実感する科学的認識形成を目標とする必要性が考えられる。また、そのためのわかる・楽しい保健教材開発が重要となっている。

2. 研究方法

学習指導要領、保健の教科書内容、保健学習実践等から、保健学習における「喫煙と健康」についての目標及び教材について、検討・分類した。

3. 結果及び考察

(1) 保健学習における「喫煙と健康」についての目標の分類例

(2) 徹底して子どもの立場に立つ教育保健学的視点から「喫煙と健康」の保健教材作成へ繋げる視点例

(3) 「喫煙と健康」についての重要でわか

る・楽しいと考えられる保健教材の存在形式の分類例

(3)-1 発問 (問題) 例：「喫煙はストレス解消になるのか」、(3)-2 文章・実話教材例、(3)-3 学習活動例：実験、調査・発表、ロールプレイング、ディベート・討論、学習ゲーム、歌唱、作品づくり、ドラマ教材、(3)-4 教具例：DVD、パワーポイントなどの視聴覚教材・教具、喫煙者の肺の写真、板書用有害物質掲示カード、掲示用図、印象深い教具となるタバコを1日10本吸う人が体に取り込む擬似タールが入った瓶、COPDの喫煙者の呼吸を擬似体験するストロー。

4. まとめ

教育保健学的視点例を盛り込んだ「喫煙と健康」の保健教材例は、対象者のニーズや喫煙者の背景を取り入れ、発達への願いが込められている。高齢化が進んでいる今、若者の喫煙による死や病などは社会的問題であり、未成年の喫煙を法的に禁止しているが、無くなっているわけではない。今後自分たちが未成年の喫煙を減らす努力をし、納得・実感させるスキルを身につけていくことも必要になるだろう。

引用・参考文献

がん対策推進協議会 (2012) www.mhlw.go.jp.
平間敬文 (2011) 小学生からの禁煙教育自由自在. かもがわ出版.
澤山信一 (2010) 教育保健の理念構築の前提～学校保健の近代をいかに越えるか～. 日本教育保健学会 研究部編. わたしたちの教育保健論. 33-34.